

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-123760

(P2007-123760A)

(43) 公開日 平成19年5月17日(2007.5.17)

(51) Int. Cl.

H05K 5/02 (2006.01)

F I

H05K 5/02

E

テーマコード (参考)

4E360

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2005-317300 (P2005-317300)

(22) 出願日 平成17年10月31日 (2005.10.31)

(71) 出願人 000124591

河村電器産業株式会社

愛知県瀬戸市暁町3番86

(72) 発明者 三輪 修

愛知県瀬戸市暁町3番86 河村電器産業

株式会社内

Fターム(参考) 4E360 AA02 EA05 EA11 EB03 FA02

GA52 GB21

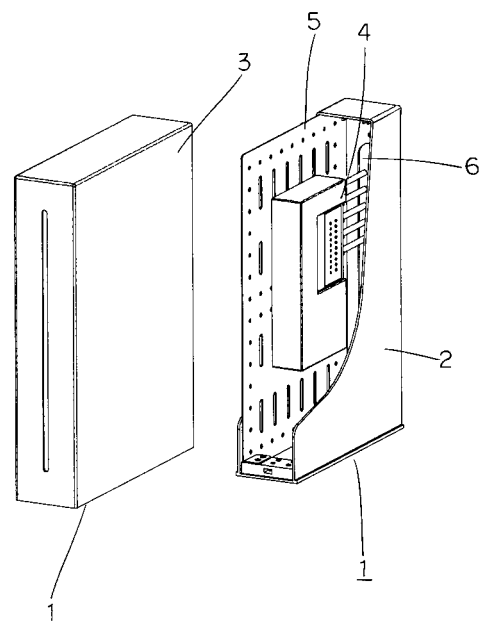
(54) 【発明の名称】 情報機器収納用箱体

(57) 【要約】

【課題】本発明は小さなスペースに設置可能である情報機器収納用箱体1を提供することを目的としている。

【解決手段】本発明に係る情報機器収納用箱体1は、情報機器4を取り付けるための取り付け板5を床面に対して垂直に配置し、取り付け板5に奥行き方向に情報機器4を配列し前面側の間口は狭くでき、床面に据え置き可能であり、小さなスペースに設置可能とし設置場所の制約を少なくし、設置作業も簡単に行えることを特徴とする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

住宅に設置される各種情報機器を収納するための情報機器収納用箱体において、前記情報機器を取り付けるための取り付け板を床面地面に対して垂直に配置し、前記取り付け板に奥行き方向に前記情報機器を配列し前面側の間口は狭くでき、前記床面に据え置き可能であることを特徴とする情報機器収納用箱体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、住宅に設置される各種情報機器を収納するための情報機器収納用箱体に関するものである。 10

【背景技術】

【0002】

住宅には主幹ブレーカや分岐ブレーカ等を配列して成る住宅用分電盤が取り付けられている。情報機器 31 を設置したい場合には、住宅用分電盤のキャビネット 32 をそのまま利用し、基台 33 に情報機器 31 を配置した機器取り付け板 34 を収納し、壁面に露出させまたは埋め込んで取り付けしていた。

【0003】

また、集合住宅等、設置可能なスペースが限られているようなところでは、より省スペースを図るため、小型のキャビネット 35 に情報機器 36 を収納して、クローゼットや下足箱等の中に取り付けていた。 20

【非特許文献 1】 2005 カワムラ 総合カタログ 電設資材編 平成 17 年 5 月 1 日

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記従来の情報機器収納用箱体では、住宅用分電盤のキャビネット 32 をそのまま利用した場合、収納する機器 31 が増大するにしたがって、キャビネット 32 の寸法が大きくなり、壁面が多く占められてしまう。また、キャビネット 32 の寸法が大きくなれば、キャビネット 32 の扉体 37 の開閉等にも広いスペースが必要となり、取り付け位置が制約されてしまう。 30

【0005】

また、小型のキャビネット 35 を使用した場合には、クローゼットや下足箱等の小さなスペースに設置できるものの、例えば下足箱の上段に設置するとき、下足箱の背面に取り付けるとキャビネット 35 は薄いため手が届かず、機器の操作がしにくくなる。、手の届く位置にキャビネット 35 を設置するため、取り付け場所をせり上げる必要があった。取り付け場所に箱状のものを設けるというような施工が煩雑で手間がかかっていた。

【課題を解決するための手段】

【0006】

そこで本発明は、小さなスペースに設置可能である情報機器収納用箱体を提供することを目的とし、その構造は、情報機器を取り付けるための取り付け板を床面に対して垂直に配置し、取り付け板に奥行き方向に情報機器を配列し前面側の間口は狭くでき、床面に据え置き可能であることを特徴とする。 40

【発明の効果】

【0007】

本発明に係る情報機器収納用箱体は、情報機器を取り付けるための取り付け板を地面に対して垂直に配置し、取り付け板に奥行き方向に情報機器を配列し前面側の間口は狭くでき、床面に据え置き可能であるため、間口の狭いスペースに収めることができ、設置場所の制約が少なくなる。また、取り付けの際に行っていた取り付け場所の施工の必要がなく、手間が大幅に省ける。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

本発明は、情報機器収納用箱体を設置しやすくするという目的を、最小の部品点数で省スペース、省施工で実現した。

【実施例1】

【0009】

本発明に係る情報機器収納用箱体の実施例を図1～図2の添付図面に基づいて説明する。

【0010】

情報機器収納用箱体1は箱体本体2と、箱体本体2を被覆するカバー3とで構成される。箱体本体2の内部には、情報機器4等を載置した機器取り付け板5を設け収納する。機器取り付け板5は立てた状態で箱体本体2の側面内側に設ける。 10

【0011】

機器取り付け板5は立てた状態で床面に対して垂直にして箱体本体2に収納されるため、箱体本体2の間口は取り付けられる情報機器4の厚さがあればよい。また、箱体本体2の背面側は通線孔6が設けられ、情報機器4への配線が行える。

【0012】

従来の情報機器収納用箱体1では、壁面に取り付けるためには、広く面積を必要としていたが、本発明に係る情報機器収納用箱体1では、情報機器4の収納方向を変更したため、箱体本体2の間口は狭くでき、省スペースとなり、情報機器収納用箱体1の設置場所の制約も少なくなる。 20

【0013】

情報機器収納用箱体1は壁面に取り付けるのではなく、据え置き可能とする。例えば住宅の玄関等に設けられている下足箱の上段のような高い位置に設置したい場合、奥行き方向に箱体本体2が延びているため、従来情報機器収納用箱体を設置する時のように、背面をせり上げるという施工の必要がなく、設置作業が大変容易になる。

【0014】

情報機器4を数多く用いる場合には、箱体本体2を連結することができる。箱体本体2の側面を接合して横方向に連結することで、情報機器4の増設が可能である。

【産業上の利用可能性】

【0015】 30

情報機器収納用箱体1は機器取り付け板6を立てて箱体本体2に取り付けることにより、情報機器収納用箱体1を省スペースに且つ、省施工で提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明に係る情報機器収納用箱体の実施例を示す斜視図である。（実施例1）

【図2】本発明に係る情報機器収納用箱体の連結した状態を示す斜視図である。（実施例1）

【図3】従来の情報機器収納用箱体の実施例を示す説明図である。

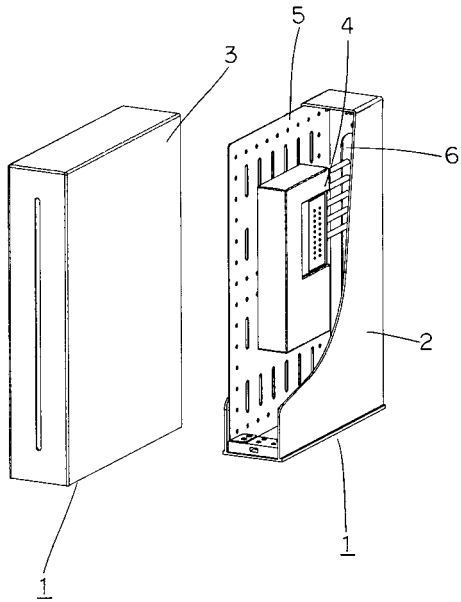
【図4】従来の情報機器収納用箱体の第二実施例を示す説明図である。

【符号の説明】 40

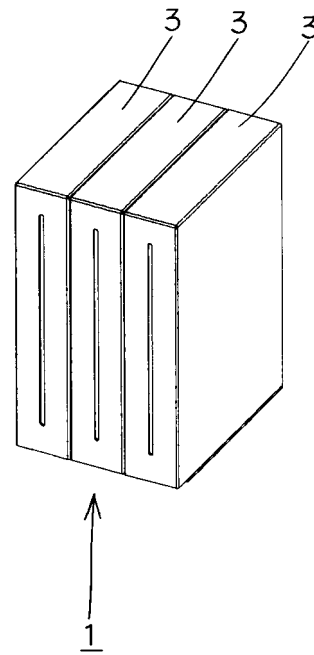
【0017】

- 1 情報機器収納用箱体
- 2 箱体本体
- 3 カバー
- 4 情報機器
- 5 機器取り付け板
- 6 通線孔

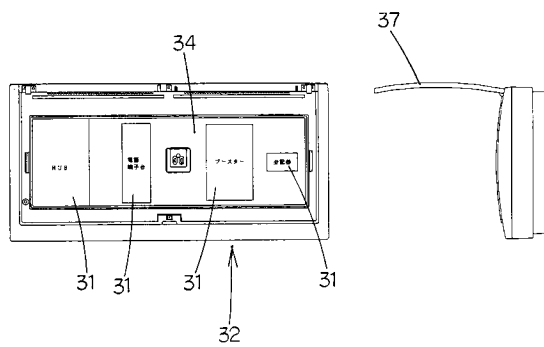
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

